

町民の皆さんと考える 10年後の猪苗代の未来

— いなわしろみらい会議からの提案 —



猪苗代町のさまざまな行政計画の中で、町の施策の柱となる最上位の計画が「猪苗代町振興計画(以下、振興計画)」です。振興計画は、10年後の町の姿を描き、その実現に向けてどのように取り組むかをまとめた計画です。

現在は、平成29年度からスタートし、令和8年度を目標とする第七次振興計画が進められています。残り1年で計画期間を終えることになります。

そこで、次の10年を見据えた新しい猪苗代町の未来を一緒に考えるために、町民の皆さんに未来のまちづく

猪苗代町振興計画とは

第八次振興計画の策定に向けて、町民の皆さんと一緒に未来を考えるワークショップ「いなわしろみらい会議」を、昨年10月から12月にかけて全4回開催しました。世代や立場を超えた人たちが集まり、町の魅力や課題、そしてこれからの未来への思いを語り合いました。

「広報猪苗代」11月号から1月号では、その様子を順にお伝えしてきました。今月号では、最終回となる第4回の会議で提案された具体的なまちづくりのアイデアをご紹介します。

みんなが描く 猪苗代の未来

第八次振興計画の策定に向けて、町民の皆さんと一緒に未来を考えるワークショップ「いなわしろみらい会議」を、昨年10月から12月にかけて全4回開催しました。世代や立場を超えた人たちが集まり、町の魅力や課題、そしてこれからの未来への思いを語り合いました。



第1回(10月1日開催)では、まず町から会議の趣旨について説明が

いなわしろみらい会議 がスタート

昨年8月、町内で参加者を公募したところ、24人の申し込みがありました。高校生の若い世代から、町内で働く人、町外から来た地域おこし協力隊、役員職員まで、幅広い人たちが参加。男性15人、女性9人、年齢は15歳から66歳までと、老若男女が同じテーブルに集まり、話し合いをする会議がスタートしました。

さまざまな世代が参加

昨年8月、町内で参加者を公募したところ、24人の申し込みがありました。高校生の若い世代から、町内で働く人、町外から来た地域おこし協力隊、役員職員まで、幅広い人たちが参加。男性15人、女性9人、年齢は15歳から66歳までと、老若男女が同じテーブルに集まり、話し合いをする会議がスタートしました。



第1回(10月1日開催)では、まず町から会議の趣旨について説明が

第2回(10月29日開催)では、前回出し合ったテーマの中から特に重要だと思われるものを選び、それを基に「将来こんな町になったらいいな」という将来像を考えました。

第3回(11月19日開催)では、その将来像を実現するための具体的なアイデアを出し、それぞれの効果についてみんなで考えました。

そして、最終回となる第4回(12月17日開催)では、A・Dの各グループが町に向けてプレゼンテーションを行いました。

次のページからは、各グループが考えた主な提案内容をご紹介します。



左から野矢副町長、鈴木選手、佐藤隆宏教育長

Pick Up

今月の話題

鈴木猛史選手 ミラノ冬季パラで 金メダル獲得を誓う

3月6日から始まったミラノ・コルテナ2026パラリンピック冬季競技大会に、本町出身の鈴木猛史選手(カヤバ所属)が出場しています。

6大会連続でパラ五輪出場となった鈴木選手は、2月19日に町役場を表敬訪問。野矢実副町長が鈴木選手に激励金を手渡し、「世界の舞台での活躍を町民一丸となって応援しています」とエールを送りました。

アルペンスキー男子座位の滑降、スパー大回転、大回転、回転、複合の5種目に臨む鈴木選手は「過去2大会の悔しさを糧に、この4年間頑張ってきた。福島製のマシン(石川町の企業が製作したフレーム)で戦えることが心強いです。町民の皆さんに金メダルを触ってもらえるよう、メダル獲得に全力を尽くします」と力強く語りました。

町では、パブリックビューイングを開催しますので、会場と一緒に応援しましょう。

▼パブリックビューイング日程

○日時

① 3月13日(金)午後7時～午後8時10分(放送時間)

② 3月15日(日)午後8時～午後9時15分(放送時間)

○開場 放送時間の30分前

○会場 学びいな 展示ホール

今月の表紙



まるしめでは毎年ひな人形を展示しています。ひな人形は、3月3日の桃の節句(ひな祭り)に、女の子の健やかな成長と幸せを願って飾るものです。写真は、学校帰りにまるしめに立ち寄った、猪苗代小5年の真田朋慧さんと飯山彩明さんです。

【撮影日】2月27日
【撮影場所】まちのえき「まるしめ」

マチイロ
マチを好きになるアプリ



ios用 Android用

LINE やメールで町から情報を配信しています。ぜひ登録を!

Contents — 【目次】

- 02 Pick Up
- 03 特集 町民の皆さんと考える
10年後の猪苗代の未来
- 06 まちのわだい
- 08 「笑顔つむぐりレー」/地域おこし協力隊通信/スクールピックアップ
- 10 ごみ・リサイクル情報
- 12 いなわしろタウンページ
- 18 暮らしの情報広場
- 20 みんなの美術館/食生活改善推進員コーナー

参加者の声



岩崎 陽介さん

[PROFILE]

上ノ上在住、45歳。大学卒業後、都内一般企業に就職。調理学校を経て南青山のレストランで修行。Uターンで家業のペンションを継ぐ。ヒーリングインホワイトペンションオーナー

いなわしろみらい会議に参加しようと思った理由は、毎月広報猪苗代に掲載される現在人口がこの10年くらいでどんどん減っているのを目の当たりにして、住民として町の観光事業者として危機感を感じていたからです。会議に出てみると参加された皆さんは、私が想像していた以上に猪苗代に対する温かい思いがあるなと思いました。そのような思いのある町役場の方々や参加者のいる猪苗代の未来は明るくなるはずと期待しています。

10年後の猪苗代町はたとえ少子高齢化で町が経済的に縮小したとしても、持続可能で自然の豊かさを生かした高付加価値な観光地「猪苗代」であり続けられていると嬉しいです。

4 未来の町づくりに向けた
Aグループは、大人も子どもも町について学べるスクールを設立することを提案しています。このスクールを通して、町の資源や人材を有効に活用しながら育てていきます。また、その過程で町内外の人々が町の良さを再認識できる機会をつくりまします。そして、子どもたちの帰郷意欲の醸成につなげ、未来の町の姿へと結びつけていくことを目指しています。

Cグループのアイデアは、チャレンジ特区を設け、空き家や空き地を資源として活用しながら新たな挑戦を促すことで、地域課題の解決や町の魅力発信、若者の活躍につなげていくものです。Dグループは、若い世代と高齢者との交流や有償ボランティアなどを活用したイベントを実施することで、10年後の中高生の活躍の場を創出し、町の宝である子どもたちが将来この町で活躍するための基盤づくりにつなげることを提案しています。

町ではこれらの提案を受けて、町に関わる全ての人々が笑顔で居続けられるように、皆さんと協働しながらその思いを着実に第八次振興計画に反映していきます。



いなわしろみらい会議に参加した皆さんが思い描く10年後の猪苗代はきっと明るいはず



将来のまちのすがた

好きでしょ？猪苗代 おいしいときめき♡
そんなあなたに!!うちの横空いてますよ!!
こっちゃん来い

実現に向けたアイデア

空き家や国道49号沿いの空き地を生かしたチャレンジ特区をつくる。

効果

空き家・空き地を有効活用し、誰もがチャレンジできる環境をつくる。地場産品を活用することで魅力を発信でき、総合的に町が活性化。

自分たちでできること

生産者と加工者をつなぐ。プロモーション。

地域でできること

地域をよく知るおせっかい屋さんなどからの協力。

手伝ってほしいこと

インフラ整備。税制優遇で「最初の一步」を後押しする。補助金や融資など“まとめて”支援する。



将来のまちのすがた

“ただいま”と“おかえり”で
にぎわいを創り出すまち 猪苗代

実現に向けたアイデア

大人も子どもも“猪苗代”を学べる猪苗代スクールを設立する。

効果

町内の人が猪苗代の良さを再認識し、町外の人を「おかえり」と歓迎できる。町内の子どもが猪苗代の良さを知り、将来「ただいま」と戻って来なくなる。

自分たちでできること

年長者や経験豊かな人から子どもに猪苗代町の話をしてもらう。

地域でできること

行事を地域で行い、スクールと意識せずとも、大人と子どもが集まれる場をつくる。

手伝ってほしいこと

信用を担保するため、スクール運営事務局を役場に置く。



将来のまちのすがた

豊かな自然を保ち、
住む人來る人
みんな猪き猪きする町

実現に向けたアイデア

若い世代とお年寄りの交流による町の活性化。

効果

40年前の人口(約1万8千人)をこれからの10年で取り戻せたら、町も潤う(10~30代と40代~後期高齢者の盛んな交流が実現)。

自分たちでできること

有償、無償ボランティアによるイベントを開催する。居心地の良い場所づくり。

地域でできること

地区ごとの交流会を開催する。社会福祉協議会が支援しながら、子どもたちを巻き込んで各地で行われているサロンを大きくする。

手伝ってほしいこと

民生委員や各小中学校、高校、特別支援学校のバックアップ。



将来のまちのすがた

どうにかしろ いなわしろ
オレも!オマエも!
町の土台を輝かせ みんなで育てる町

実現に向けたアイデア

個人事業主やスタートアップ企業を誘致する。→職の地域定着

効果

人口流出を防ぐ。猪苗代高校の探究活動の土壌育成。人材の受け皿。

自分たちでできること

店に行く。SNSなどで発信する。ローカルメディアを作る。

地域でできること

よそ者扱いしない。好きでいること。

手伝ってほしいこと

企業誘致にもっと力を入れる。企業側の理念・思いを発信する。